



憲法審査会始まる

急いで憲法を変えなければならない理由は 国民の側がない

衆参両院の憲法審査会が相次いで約1年5カ月ぶりに再開された。憲法審査会は憲法改正原案が提出された場合、これを審査し、採決する場となる。過半数が原案に賛成すれば可決され、本会議に提出される。



衆参両院ともいわゆる「改憲勢力」が3分の2を超えたため、改憲が現実味を帯びてきた。

「違憲の安保法を放置しての改憲論議」はとんでもない。明らかに九条を変えようというのは少なくとも表向き自民だけだ。それだけ国民の九条を守れ、改正の必要はないという声の強さを無視できないということだろう。世論も多くのマスコミも「急いで改憲しなければならない理由がない」と見ている。だから**改憲派の論法**はあまりに的外れだ。

読売新聞は「2000年の衆参両院憲法調査会の設置以来、様々な論点の議論が尽くされ、今は改正項目を絞り込む段階にある。各党は独自の案を早急に出し合うべきだ。」「憲法改正原案の審議という重大な役割を担う機関として、怠慢すぎないか。国民が審査会の動向を注視する中、もっと精力的に議論することが欠かせない。」などと主張し、安保法を問題にすることに「政権批判の場ではない」と非難する。そして改憲を進めようとする動きを「前向き」とか「建設的な対応」というのである。新聞人としての批判精神はどこへ？

安倍晋三首相は、なんとしても「任期中に」と改憲に意欲を燃やし、当初は96条の改正のルールを変えようとした。裏口入学だと各方面から批判を浴びるとこれを引っ込め、災害に引っかけて緊急事態条項を前面に掲げるようになった。日本の社会全体を壊してしまう劇薬を何とかだまして国民に飲ませようと、本音を隠して改憲を狙っている。

審査会の模様がTVで報道された。委員である中谷防衛、上川法務などの元大臣は原稿を読み上げて自民党の主張を述べただけ。一体どれだけ自分の言葉で理解しているのだろう。国民の監視を！

沖縄米軍の事故隠し

02~16年環境汚染の恐れ270件超、報告6件

英国人ジャーナリストのジョン・ミッチェル氏が米情報公開制度を利用して入手した内部文書によると、普天間飛行場など沖縄県内の3カ所の米海兵隊基地で2002年から16年までに、燃料流出など環境汚染につながる事故が少なくとも270件あり、そのうち、日本側に報告があったのは6件だけだったことが分かった。

普天間飛行場、キャンプ・ハンセン、キャンプ・シュワブそれぞれの基地で流出した航空燃料や軽油、汚染水などの有害物質の量は、それぞれ14003㍓、2596㍓、6652㍓に上った。海兵隊の「環境事故ハンドブック」には「**緊急対応が不要な事故、政治的に慎重な扱いを要する事故は日本側に通報しない**」との記載があった。

通報しても、内部文書と比べ、事故を過小評価。例えば、今年6月15日、普天間飛行場で航空燃料6908㍓の流出事故があった。これについて、日本側へは「バルブの調整ミス」「即座に処理した」と伝えていたが、内部文書によれば、流出を緊急停止できる安全装置の故障を放置していたための事故で、流出を抑え込んだのは発生翌日だった。しかも流出は基地内にとどまったものの、事故に伴って汚染した土壌11208㍓、汚染水3028㍓を処分したことについては通報されていなかった。

基地の外側に流出が及んでも、日本側に通報しなかった事故もある。〇五年九月にキャンプ・シュワブで工事中に燃料供給管が誤って切断された。流出した九百四十六㍓の軽油の一部が近隣の河川に流れ込み、県が環境保護地域に指定している近隣の海岸を汚染した。

また、普天間飛行場ではがんや生殖障害などを誘発する有機フッ素化合物を含む消火剤の流出事故が3件あり、計2669㍓が流出し、一部は基地の外にも。



現行の日米地位協定では事故の通報は米軍の判断に委ねられ、日本側には立ち入り調査する権限がない。ミッチェル氏は「ドイツの駐留米軍は、ボン補足協定で独政府の抜き打ち調査を受け入れている。日本でも米軍は国内の法律や基準を守り、日本側の抜き打ち調査も受け入れるべきだ。協定を改定するしかない」と指摘した。（東京新聞より）

国民に見えぬところで 日米一体で敵地長攻軍事演習 「戦争法」動いてる

南スーダンばかりではありません。自衛隊がここまで本格的に米軍と一体での戦争を目指している、という演習のレポートを紹介します。

10月30日から自衛隊と米軍の日米合同統合実働演習が日本周辺空海域と、初めて Guam、テニアン島及びその周辺空海域で行われました。

「ひゅうが」から出撃

日本でこの演習が公開されたのは、11月7日の沖縄県うるま市沖の合同捜索救難訓練だけ。しかし、米海軍はホームページで「演習の絶頂」として、テニアン島での強襲上陸作戦をあげています。



ひゅうが

10月31日までは Guam を中心にレーガン空母打撃群と海上自衛隊の艦艇5隻が集結。11月8日に行われたテニアンへの上陸演習では、日米両軍の旗艦とされた海自ヘリコプター護衛艦「ひゅうが」から、陸自のCH47大型ヘリに乗って海自と米本土の海兵隊の隊員が何波にもわたって出撃。海自の戦車輸送艦「おおすみ」からは沖縄の海兵隊が発進しました。



おおすみ

型ヘリに乗って海自と米本土の海兵隊の隊員が何波にもわたって出撃。海自の戦車輸送艦「おおすみ」から

は沖縄の海兵隊が発進しました。

海からは強襲用ゴムボート、空からはヘリで浜辺に上陸すると、テニアン島を横切り、ノース・フィールドに向かいました。この作戦を、空からの攻撃で、陸自のAH64Dアパッチ攻撃ヘリ、空自のF2戦闘機、米空軍の戦略爆撃機B1ランサーが支援しました。



アパッチ

また、米本土から派遣された強襲揚陸艦コムストックから出動した第11海兵遠征隊が水陸両用強襲車両で陽動作戦を行い、レーガン空母打撃群と海自の艦艇はフィピン海一帯で対空・対ミサイル防護演習を行いました。

自衛隊はこの演習を「島しょ奪還作戦」と称しています。しかし、敵地に上陸、占領する作戦であることに変わりはありません。初めて自衛隊の艦艇から自衛隊のヘリに乗って米海兵隊が出撃したことは、戦争法の規定をも超えて、自衛隊が世界中どこでも米軍と一緒に侵攻作戦を行うことを示したものです。(平和新聞より)

その他米軍はホームページで厚木基地の自衛隊が沖縄の米軍嘉手納基地に弾薬を運んだり、東京の横田基地で陸自習志野基地の第1空挺団が米軍のC130輸送機に貨物を搭載して九州上空で投下する訓練など報じています。国内でも米軍と自衛隊がまさに一体の軍事作戦を展開したのです。

驚くべき自民党の改憲案

11月23日九条の会・流山の学習会を行い、自民党の改憲案と、そのQ&Aを取り上げました。

「天皇を元首」「国防軍」などが問題になっているのは知られていますが、「国旗国歌を尊重せよ」とか「国民は国を守れ」「家族は助け合え」などと国民に義務を課すもので、国家権力を縛るための憲法の本来の役目をまるで逆様にした驚くべきもの。背景に「国民会議」「神道政治連盟」などの勢力が圧倒的な自民党の現在があることなどが話し合われました。次回は来年です。

「オスプレイはいらない」

木更津集會に1300人

防衛省は来年1月から千葉県木更津市の陸上自衛隊木更津駐屯地内で米海兵隊のヘリコプター、オスプレイの定期整備



を強行しようとしています。これに抗議して木更津市の吾妻公園で千葉県民集會が開かれ1300人が参加しました。市民団体や労働組合などが「県民大集會in木更津実行委員会」を結成して開いたもので、「平和・人権、教育と文化を考える会」の平良文男会長の挨拶に続いて日本共産党、自由党、社民党、新社会党などからの挨拶。木更津駅までパレードしながら「整備工場はいらない!」「オスプレイはいらない!」とアピールしました。

12月19日(月)14:00~

場所: 国会議員会館前

主催: 総がかり行動実行委員会

11月は9000人でした。

九条の会・流山は2人でしたが、続けています

12月10日(土) 13時半~

高江オスプレイ・パッド

辺野古新基地の

建設を許さない東京集會

会場: 日比谷野外音楽堂 ※集会后デモ

主催: 基地の県内移設に反対する県民會議

戦争させない・9条壊すな!

総がかり行動実行委員会

流山12月の行動予定

◆12月9日(金)「おたかの森駅」

15:30~ 宣伝・署名、

~~~~~

カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130-5-464735 口座名 九条の会流山